

県産米特A獲得誓う

山形つや姫ブランド 育苗管理を徹底 化戦略推進本部など

【山形中央】山形県と物検定協会の2016年JAGグループなどで組織する山形つや姫ブランド化戦略推進本部と雪若丸ブランド化戦略実施本部などは1日、「つや姫」と「はえぬき」「雪若丸」と「はえぬき」「雪若丸」など県産米の高品質生産に向け、寒河江市と河北町で健苗育成のための巡回指導を始めた。日本穀

物検定協会の2016年産食味ランキングで特A評価を逃した「はえぬき」と、参考品種ながらA評価だった18年本格デビューの「雪若丸」の特A獲得を誓った。

県農林水産部の須藤佐蔵技術戦略監やJAGグループ山形地域・担い手サポートセンターの大武義

孝センター長、県米穀集荷協同組合の土田仁常務ら担当者約20人が参加。山形つや姫マイスターの会の土屋喜久夫会長

(寒河江市)の育苗ハウスでは、県の担当者らが「昼夜の温度差が大きいので細心の注意をしてほしい」と助言。土屋さんは「22年連続特Aだった、はえぬきの特A奪還に向け、生産者と一体となって取り組む」と強調。中旬にも田植えをす

る考えを示した。河北町畑中の奥山喜男さんの育苗ハウスを巡回指導した。

「雪若丸」は、17年は実証試験を兼ねて県全体で200ト生産し、先行販売する。



土屋さんの「つや姫」育苗ハウスで生育状況を視察する関係者
(1日、山形県寒河江市で)